

自然賛歌

日の出を拝む

妹尾 治人

西暦二〇〇〇年の夜明けは、除夜の鐘をきき日の出を拝むことから始まる。月日の経つのは、毎日同じことの繰り返しのものであるが水の流れの如く常に新しいもので、同じ水はもう来ない。二〇〇〇年の初日も二度とは出ない。

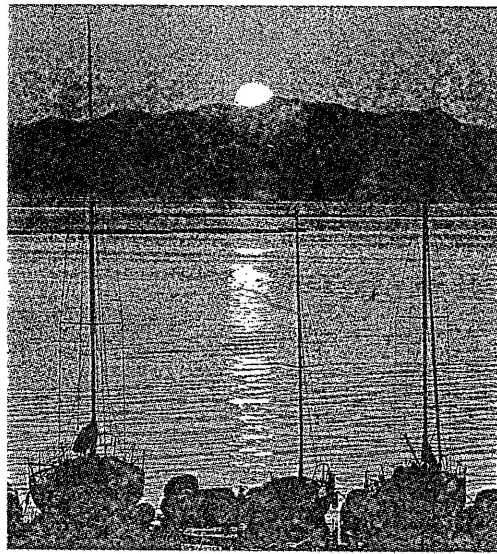
太陽の有難さは、今更謂うまでもないことながら絶対的なもので、若し太陽なかりせば、人間は勿論のこと、生きとし生けるものは、此の世に存在しないわけで、太陽に感謝し、手を合わせて遙拝することは至極当然のことである。

初日の出を拝むには、廿日市市の地勢は起伏があつて大変恵まれている。海あり山あり日の出を拝む場所が多い。今回の自然賛歌では、その場所を紹介することにする。

日の出を拝むには高い山が好まれ、極楽寺山の展望台が何と言つても一番の人気である。懐中電灯を持って歩いて登ってくる人も多いが、最近車でくる人が増加し、この時間帯は駐車場が大混雑するので早目に行くといふ。

次に多いのは山陽自動車道の宮島サービスエリア下り線（宮島と呼ばれているが実は廿日市市上平良）。ここでは、公園広場から売店の裏まで、ずらりとカメラの放列が並ぶ。

写真を撮るには極楽寺山より広く条件がよい。次は宮園三丁目。この場所は、小高いところで見晴らしがよく、宮園団地の人だけだけでなく、最近この穴場が市民に知られてきたようだ。



写真は徳井良哲さんの提供

（全日本写真連盟会員）

その他、日の出を拝む場所はたくさんあるが、私の最も好きな場所は、廿日市天満宮。

初詣の御祓いを受け、似の島（安芸の小富士）を背景に昇る日の出はまさに絵になる光景だ。

山がどうしてもと云う向きには、佐方小学校裏の法華山、低い山で一五分もあれば登られる。登山口は①洞雲寺陶晴賢の墓の前を直登する道②平良山手四の竹藪の所から登る道③バイパス平良一号トンネルノ南側から登る道。この三つの登山口のうち、いちばん登りやすいのは、③の平良一号トンネル南側からの道がよい。そこから登って送電線の鉄塔の所で日の出を拝み洞雲寺に下山すると、早朝のミニハイキングの気分になれる。

低い場所では阿品三丁目の海岸がよい。岸壁にカメラを据えて、瀬戸の島々を背景に昇る真っ赤な太陽を写真に撮れば最高だ。

以上、六か所の案内をしました。その他高台、歩道橋、高層ビルなど、身近なところにも日の出を拝むスポットは多いと思われる。意義ある節目としての二〇〇〇年を迎えるにあたり、太陽に手を合わせ、争いの絶えなかつた一九〇〇年代を反省し、世界中が平和に暮らせる方途を、本気で考えなくてはならない。その為には、核兵器をはじめ全ての武器を捨て、かけ替えのない自然を大切に守っていくことが大事である。人を殺し、自然を破壊する武器があつては、平和の話は進まないと思う。

〃太陽に平和を祈る千年紀〃

（自然観察指導員）